
仇。

トモミチ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
仇。

【Nコード】
N5390C

【作者名】
トモミチ

【あらすじ】
達磨と師匠のやりとり。見返りが欲しいから親切をするが、実らなかった話。

いつの日だったか覚えていないが、林檎売りの老婆から聞いた話。

ある階段の隅に、黒い固まりが達磨のよう
うに座っていたらしい。

その黒い固まりは、それはそれは忠実なるクリスチャンであつたそうで、首に提げたやたら大きな十字架を握り締め、階段の隅で一人、ぼそぼそ何か呟いていた。

階段を上った所には大きな寺院があり、それはそれは忠実な仏教徒が暮らしていたのだが、達磨のクリスチヤンは知ってか知らずか、その階段に住み着いて、昼間は何かを呟き、日が暮ればまた達磨のように丸くなって寝てしまうのである。

そのせいで門下の僧達は階段を気味悪がつて下りれなくなつて上れなくなり、門上の僧達は階段を気味悪がつて下りれなくなつてしまった。

夜の間に使いに出した弟子達が帰つて来ないのを不思議に思つた師匠が、自ら階段を下りていくと、階段の丁度中段あたりに、黒い達磨のような固まりが隅に置かれているのを見つけた。

やはり彼は弟子を従えるに相応しい師匠であつた。隅に張りついている達磨に近づくな否や、懷から翡翠の数珠を取り出して、達磨の膝に置いてこう言つた。

「釈迦様ならば、あなたにこのような事をさせないであらう。お目を覚ましなされ。」

延々呟いていた声を止め、達磨は顔を上げた。長い前髪に長い髭。僧達が梯子を持ち出す理由がわからなくも無く、人間、不審な物は

極力避けて通ろうという気で生きているという事実を改めて思い知らされた。

膝に置かれた数珠をまじまじと見つめた達磨は、自分が握り締めている十字架に目を向けた。その姿目の前で見る師匠は、なんとなく、紫陽花の葉の上を這う蝸を想像した。達磨は、見つめていた十字架に数珠をうまく括りつけた。

師匠は困惑した。

「そのようなこと、釈迦様にご無礼です」

聞く耳持たず、達磨は顔を上げると師匠に言った。

「無理にどちらかを決める必要はないのだ。この翡翠は高く売れるだろう。」

言つなり達磨は立ち上がって、商店の方へ歩きだした。

師匠は口を開けたまま、その背中を見送る事しかできなかった、とさ。

親切が仇になった瞬間である。

（後書き）

親切が仇になることってありますよね。最近自分が体験した出来事がモチーフ。ちょっと古文っぽく書いてみました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5390c/>

仇。

2010年10月18日09時34分発行